

人手不足の解消に、IT（情報技術）を活用している事業所もある。

京都市の訪問介護事業所「ケア・ステーションおもいやり」では、コンピュータを利用して、事務を徹底的に簡素化した。

利用者の名前などの基本情報のほか、サービス提供の日時や内容など、複数の書類に記録される情報は、パソコン上で一度入力すれば、他の書類にも自動的に転載されるシステムを構築。サービス終了後、ヘルパーが携帯電話のメールで事務所に報告を行うと、その情報をもとに自動的に給与が計算され、銀行に振り込みの指示が送られるようになっていく。事務経費の節減分は給与に上乗せし、介護報酬の50%をヘルパーに

事務簡素化へIT活用

節減分は給与に上乗せ

支払っている。例えば日中におむつ交換などの身体介護を約1時間行う場合、時給は2150円になる。07年の介護労働実態調査の平均時給1121円を大幅に上回る。

社長の河本崇さんは「事務に取られる時間が減れば、利用者と向き合う余裕も生まれる。ケアの質を保つためには、十分な待遇が必要だ」と強調する。



写真を多用して、職員や活動の様子を紹介している「はっぴーライフ」のウェブサイト

ウェブサイトを活用して、求人に成功しているのは、訪問介護やデイサービスを手がける「はっぴーライフ」（東京都武蔵野市）だ。

02年の設立当初は年間10人程度だった応募者が、自社のサイトの充実に従って急増。今年はすでに400人を超えたという。サイトでは、職員の活動の様子などを写真をふんだんに使って紹介している。職員が日々の出来事をつづるブログ（日記形式のサイト）や動画もある。

船井総合研究所介護・障害サービスコンサルティングチームの鎌谷和弘さんは、「介護の仕事にはたくさんの楽しさや感動があり、その姿をありのまま見せるのは効果的。ネットは有効な手段だが、活用できている事業所が少ない」と話している。